

ヨーロッパで大学評価に 何が起こっているか

日本－ノルディック公開シンポジウム：
大学評価をどう活かすか－北欧の成功から学ぶ

国連大学
2006年9月28日

Christian Thune
Executive director of the Danish Evaluation Institute

1

講演内容

- 高等教育の質保証におけるヨーロッパの協力(ENQA)
- 北欧の質保証機関間の協力(NOQA)
- デンマークにおける高等教育の質保証(EVA)

2

ヨーロッパの成功に関わる1992年当時の状況 (1)

プラス面:

- 評価機関は通例、政府が主導して設置
- 方法とプロセスの選択では機関に自主性
- 4段階モデルを普遍的に採用(独立機関、自己評価、専門家による訪問調査、報告書)
- 各国の制度における周期的な活動
- 機関のネットワーク作りに前向きな姿勢
- 欧州委員会からの強力な後押し
- 1994~95年に欧州パイロットプロジェクト実施

3

ヨーロッパの成功に関わる1992年当時の状況 (2)

マイナス面:

- 各国アプローチの不統一(目標と方法)
 - 西ヨーロッパ:改善志向の評価
 - 中央・東ヨーロッパ:アカウンタビリティ重視の認定
- 専門能力の育成における大きな相違
- 言語や用語の問題
- 大学全体が抱く猜疑心と不信感

4

2002年までのヨーロッパの質保証戦略

欧州各国ほぼすべてが評価機関を設立

EVAによるENQAに関する調査で5大アプローチを特定

- プログラムの認定 (accreditation)
- プログラム別評価 (evaluation)
- 機関別監査 (audit)
- 機関別評価
- 機関の認定

5

ボローニャ・プロセス——挑戦と促進

1999年 ボローニャ — 2001年 プラハ — 2005年 ベルリン
— 2007年 ロンドン

- 重要テーマ: 欧州高等教育の透明性、適合性、比較可能性、弾力性
- 高等教育の質保証の重点化
- 主要ステークホルダー: 大学、学生、教員、雇用主、社会

6

ENQA

- 欧州高等教育質保証協会 (European Association for Quality Assurance in Higher Education) の略称
- 1999年設立
- 現在、42機関が加盟
- 第一の目的: 知識とベストプラクティスの共有と普及
- 第二の(重要性増大)の目的: 政治的役割の遂行

7

欧州基準に関するENQA報告書

「欧州高等教育圏における質保証基準及びガイドライン」

- 2005年5月のベルゲン教育大臣会合で提出
- ENQAメンバーおよびパートナー機関による全面的承認
- 欧州の教育大臣に採択された基準とガイドライン

8

結論と提言

- 内部および外部質保証ならびに外部質保証機関に関する、合意された欧州基準
- 同基準は高等教育機関と質保証機関にとって、共通の基準点
- 欧州の質保証機関に対し5年以内ごとの評価を義務化
- 欧州の質保証機関の登録簿を作成予定

9

高等教育に関する基準

範囲: 欧州基準は高等教育機関の内部および外部の質保証を扱っている。

対象: 同基準は、ポローニャ・プロセス参加国の全高等教育機関に適用される。

目的:

- 欧州高等教育圏の学生が受けられる高等教育を改善する
- 高等教育機関自身による質の管理と向上を支援する
- 質保証機関自身の業務の基礎を築く

10

内部質保証の基準

- 質保証の方針と手順
- プログラムや授与学位の承認、モニタリング、定期的な見直し
- 学生の評価
- 教員の質保証
- 学習資源と学生サポート
- 情報システム
- 情報公開

11

外部質保証に関する基準

- 内部質保証の手順を使用
- 外部質保証プロセスの開発
- 評価の判定基準
- 目的に適合したプロセス
- 報告
- フォローアップ手順
- 定期的な見直し
- システム全体の分析

12

外部質保証機関に関する基準

背景: 欧州の外部質保証機関および欧州以外の機関の増加

ターゲットグループ: ボローニャ・プロセス参加国で活動する外部質保証機関

目的: 質保証機関の専門性、信頼性、完全性を、見えやすくして透明性、同等性を高める

13

外部質保証機関に関する基準

- 高等教育に関する外部質保証の手順を使用
- 公式の地位・資格
- 活動
- 資源
- 使命の公開
- 独立性
- 質保証機関が使用する外部質保証の基準とプロセス
- アカウンタビリティの枠組

14

欧州の質保証機関の登録簿

- ベルゲン会合での負託
- 目的
- 利用者
- 範囲
- 欧州登録簿委員会
- スケジュール

15

成功のための主要課題

- 政府、高等教育機関、質保証機関の欧州基準実施に対する意欲
- 中心的原理としての国の補完性と欧州の構造全体とのバランス
- 各国政府、質保証機関、高等教育機関、学生、その他のステークホルダー間で異なる利害や目標
- 登録簿が専門的な手段ではなく政治手段となる恐れ

16

北欧高等教育質保証ネットワーク(NOQA)

- 1992年から年1回会合
- 2003年に正式に発足
- ENQA下の地域ネットワーク
- 公式化の度合いは低い
- 北欧の政治プロセスとの結びつきは弱い

17

北欧ネットワークのポイント

プラス面:

- 全機関が国の機関で政府主導
- 北欧諸国間での協力にあたり、文化と伝統が共通
- 大学は概して質保証に前向き
- スカンジナビア言語の共通性
- アカウンタビリティと改善志向アプローチの組み合わせ
- 共通方法: 評価－監査－認定

マイナス面:

- 依然として質保証機関の体制作りに対する北欧各国政府による個別のアプローチ

18

北欧質保証機関の質保証に関する主な方法

評価

- インプット、アウトプット、プロセスを重視した、プログラムや高等教育機関の質の判断

監査

- 大学の質文化と内部保証に関する評価

認証

- 高等教育機関やプログラムが事前に定められた基準をどの程度満たしているかどうかの評価。結果は順守に関してイエスかノーかを正式に判断

19

NOQAの活動

- 年次会合
- 年次合同プロジェクト2001～06:
 - 「北欧高等教育における質保証——認定と同等の活動」
 - 「質保証機関の相互認証方法」
 - 「北欧高等教育の質保証への学生の参加」
 - 「北欧高等教育における質に関わる計画的な活動」
 - 「北欧の観点から見た欧州基準とガイドライン」
 - 「考え方と手法としての監査」

20

NOQAの成果

- スタッフの交流
- 外部専門家の協議・情報交換機関としての役割
- ENQAへの共同報告
- ENQAの発展と政策への多大な貢献

21

NOQAの更なる成功に向けた課題

- 欧州協力という状況の中で北欧の要素を維持する。
- 北欧の協力強化と調和を目指す一方で、教育と質保証システムの政策における各国間の相違を認識し、これらのバランスを図る。

22

デンマークの高等教育機関の外部質保証

1992～99 デンマーク評価センター:高等教育におけるプログラム別・分野別の本格的な評価

1999 デンマーク評価機構(EVA)

- 議会の決定によって設立
- 幼児教育から大学に至る教育制度全体が対象
- 教育省に属する独立した機関
- 主導権を持つ理事会
- 職員数75名

23

EVAの目的と職務

- 教育方法の開発と改良
- 体系的な評価による教育と指導の質の開発および可視化
- 公的諸機関および教育機関に対する助言と協力
- 国の知識基盤として、教育評価に関する国内外の経験を収集

24

第1フェーズ:2000～2003

- 評価センターが実施した高等機関のプログラム別評価を抽出し検証
- テーマ別評価
- 教育制度(初・中・高等)全体にわたる評価
- 国際比較
- 国際的なベンチマーキング
- 監査
- 認定
- 収益活動

25

第2フェーズ:2004～2006

- 大学機関別の監査(12校)
 - 国内/北欧の委員会から国際的な委員会へ移行
 - 自由な形式から欧州基準に基づく形式へ移行
- 大学のプログラムの選択的で基準に基づく評価
- 高等教育の中期プログラムの認定
 - プログラム別(70機関における20プログラム)
 - 機関別(18)

26

デンマークの成功に向けた主要課題

- 広範囲に及ぶ任務の管理(対象範囲の問題)
- 改善とアカウンタビリティとのバランス
- 教育機関レベルとプログラムレベルのバランス
- 教育省と科学省との官僚的な対立の打開
- 収益活動の増強
- メディア、政府当局、教育機関それぞれに対する情報戦略の策定
- 欧州基準の遵守の継続

27

関連リンク ー 詳細情報

- www.enqa.net
- www.noqa.net
- www.eva.dk

28